

第2章 新市の概要

1 歴史

岡山市は、古代より吉備文化の発祥地として栄え、市西部には今も多くの史跡を残し、市の中心部においては、戦国時代末期に宇喜多氏が岡山城を築城したことに始まり、その城下町の整備に努めて、岡山発展の礎を築きました。江戸時代には池田氏が藩主となり、学問の奨励や藩政の改革、後楽園の築庭、また、岡山平野南部の大規模な干拓事業などが行われ、以降、政治・経済はもとより、交通・教育文化・医療などさまざまな都市機能を備えた中心都市として発展してきました。

建部町は、岡山と津山のほぼ中間に位置し、かつては津山往来の要衝でした。近世において、福渡地区は、旭川の渡し場や高瀬舟の船着場があり、宿場町として栄え、建部地区は、備前池田藩の家老、建部池田氏の陣屋を中心に繁栄しました。近年は、水稲や酪農などの農業が基幹産業となっており、また豊富な湯量を誇る八幡温泉とたけべの森公園を中核に、旭川を活かした豊かな自然環境とふれあえる観光交流拠点となっています。

瀬戸町は、吉井川や山陽道副道を背景に古くから栄え、古墳や古代寺院、古代朝鮮式山城などが所在しています。鎌倉時代には、南都東大寺再建のための瓦が作られ、万富東大寺瓦窯跡として、今に残っています。近世には田原用水が築かれて水田化が進み、水稲・桃・ぶどうなどの栽培が盛んに行われてきました。現在では、吉井川の水や山陽自動車道など立地条件に恵まれて数多くの工場が進出しているほか、県南都市の近郊住宅地としても発展しています。

合併の沿革

岡 山 市	明治22年6月1日	市制施行
	明治32年8月1日	御津郡御野村、伊島村、石井村、鹿田村、古鹿田村 福浜村の各一部及び上道郡三權村を編入
	大正10年3月1日	御津郡伊島村、石井村、鹿田村及び御野村の大部を 編入
	昭和6年4月1日	上道郡宇野村、平井村、御津郡福浜村を編入
	昭和27年4月1日	御津郡牧石村、大野村、白石村、今村、芳田村、児 島郡甲浦村、上道郡三幡村、沖田村、操陽村、富山 村を編入
	昭和28年3月1日	御津郡牧山村、赤磐郡高月村の各一部を編入

(2) 気 候

新市は、瀬戸内式気候区に属し、平均気温が南部で16℃前後、北部で14℃前後と年間を通して比較的温暖で、晴れの国おかやまの言葉が示すとおり日照時間は2,000時間を超え、降水量は1,100mm～1,300mm前後となっています。

また、降雪はほとんどなく、台風等の自然災害も少ない地域です。

(3) 面 積

新市の面積は、789.88km²、東西約35km、南北約48kmで、岡山県の面積の11.3%を占めています。

地域別面積等 (単位：km²，%)

区 分	岡 山 市	建 部 町	瀬 戸 町	合 計	岡 山 県
面 積	658.57	89.53	41.78	789.88	7,009.12
県面積比率	9.4	1.3	0.6	11.3	100.0

(注) 1 平成17年10月1日現在の国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

2 児島湖(7.13km²)の水面が境界未定のため、岡山市には含まず、県計へのみ含む。

3 玉野市及び香川県香川郡直島町は境界の一部が未定のため、玉野市の面積は県計に含まれていない。

3 社会条件

(1) 交通網が集中する広域交流拠点

新市は、岡山県の県庁所在地として政治・経済・文化の中心地であり、道路・鉄道・空路などの交通網が集中する広域交流拠点となっています。

高速道路は、東西方向に山陽自動車道、南北方向に岡山自動車道が整備され、全国的な幹線道路網の一部を形成し、一般国道では、国道2号、国道180号、国道250号、国道484号が東西方向に、国道30号、国道53号、国道429号が南北方向に整備されており、県道とともに新市の骨格的な道路網を形成しています。

鉄道は、JR山陽新幹線が東西に敷設され、在来線では、山陽本線をはじめ、伯備線、瀬戸大橋線、宇野線、津山線、赤穂線、吉備線がJR岡山駅から各地域に連絡しており、中四国の結節点として拠点的作用を担っています。

また、3,000m滑走路を擁し、輸入促進地域(FAZ)の指定を受け、国際物流拠点として発展をめざす岡山空港や、重要港湾としての岡山港があります。

しかしながら、自動車交通量の増大に伴い、市街地で発生する交通渋滞や地域を連絡する幹線道路ネットワークの不足は、社会的コストの増大を招いており、道路をはじめとする交通基盤整備が今後の課題となっています。



(2) 土地利用の状況

新市の総面積は789.88km²で、森林面積が350.87km²と一番多く、全体の44.4%を占めています。森林を除く面積は、439.01km²(55.6%)で、比較的広大な平地に恵まれた区域であるといえ、その平地を活かすことにより、人口集積などさらなる都市空間の広がりの可能性を秘めています。

また、農用地面積は、167.88km²で区域の21.3%を占め、農用地にも恵まれています。

地域別に特徴を見ると、建部町と瀬戸町では森林の割合が、それぞれ69.5%、56.0%を占め、岡山市では、森林、農用地の占める割合は多いものの、宅地の占める割合も2町に比べて比較的多くなっています。

土地利用の状況(面積) (単位：km²，%)

区分	農用地	森林	水面等	道路	宅地	その他	合計
岡山市	154.13	265.27	45.82	39.52	70.36	83.47	658.57
構成比	23.4	40.3	6.9	6.0	10.7	12.7	100.0
建部町	7.50	62.20	5.85	3.20	2.56	8.22	89.53
構成比	8.4	69.5	6.5	3.6	2.8	9.2	100.0
瀬戸町	6.25	23.40	3.01	2.42	3.13	3.57	41.78
構成比	15.0	56.0	7.2	5.8	7.5	8.5	100.0
合計	167.88	350.87	54.68	45.14	76.05	95.26	789.88
構成比	21.3	44.4	6.9	5.7	9.6	12.1	100.0

(注) 1 岡山市の面積は、岡山市(平成4年)、旧御津町(平成14年)、旧灘崎町(平成6年)の「国土利用計画」による。

2 建部町と瀬戸町の面積は、建部町(昭和59年)、瀬戸町(平成13年)の「国土利用計画」による。

3 各市町の合計面積は、平成17年10月1日現在の国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」による。

4 人 口

(1) 増加傾向にある総人口

平成17年国勢調査結果速報による新市の総人口は696,026人となっており、岡山県の総人口の35.6%を占めています。平成2年から平成17年の15年間の新市域の総人口は、建部町では減少しているものの岡山市、瀬戸町では増加しているため、全体では増加傾向にあり、さらに県に占める割合も増加してきています。

世帯数については、15年間で221,192世帯から282,624世帯へと次第に増加していますが、一世帯当たりの人員は2.90人から2.46人へと減少しています。

また、年齢別に見ると、平成2年から平成12年の10年間で年少人口は118,696人(18.5%)から103,078人(15.3%)に減少し、逆に、老年人口は78,469人(12.3%)から114,670人(17.0%)に増加しており、少子・高齢化が進行していることがうかがえます。

総人口・世帯数 (単位：人，世帯)

区 分		平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
岡山県総人口		1,925,877	1,950,750	1,950,828	1,957,056
各 市 町	岡山市	618,578	641,654	652,679	674,605
	建部町	7,701	7,338	6,989	6,521
	瀬戸町	14,127	14,354	14,707	14,900
新市計		640,406	663,346	674,375	696,026
県に占める割合(%)		33.3	34.0	34.6	35.6
世 帯 数		221,192	246,101	259,350	282,624
一世帯当たりの人員		2.90	2.70	2.60	2.46

(注) 1 各年国勢調査による。平成17年は速報値。

2 平成2年，平成7年，平成12年の岡山市の人口は，旧御津町及び旧灘崎町を含む。

新市年齢階層別人口

(単位：人)

区 分		平成2年	平成7年	平成12年
年 少 人 口 (0~14歳)		118,696	108,816	103,078
	構 成 比 (%)	18.5	16.4	15.3
生 産 年 齢 人 口 (15~64歳)		442,613	458,724	456,485
	構 成 比 (%)	69.1	69.1	67.7
老 年 人 口 (65歳以上)		78,469	95,247	114,670
	構 成 比 (%)	12.3	14.4	17.0
年 齢 不 詳 人 口		628	559	142
	構 成 比 (%)	0.1	0.1	0.0
合 計		640,406	663,346	674,375

(注) 1 各年国勢調査による。

2 国勢調査速報値は、人口・世帯のみのため、平成17年の年齢階層別人口は記載することができない。

(2) 増加する第3次産業就業人口

新市の就業人口は、平成12年現在で324,337人となっており、岡山県内の就業者人口の34.2%を占めています。

新市の産業別就業者の動向では、岡山県の県都としての中枢管理機能や商業機能の集積を背景に、第3次産業への就業が年々増加しており、平成12年現在で229,390人と全体の70.7%を占めています。その反面、第2次産業への就業者は、平成2年からの5年間に87,274人から89,457人へと若干増加しているものの、平成7年からの5年間では82,507人へと減少し、さらに、第1次産業就業者は、平成2年の16,779人から平成12年は12,440人と全就業者数の3.8%までに減少しています。

人口千人当たりの産業別生産額等から、建部町では、就業人口割合の高い農業生産額が高くなっており、瀬戸町では、立地条件に恵まれ多くの工場が進出していることから、製造品出荷額等が高くなっています。また、岡山市では、これまでの商業施設の集積などにより、商品販売額が高くなっていることなどが見とれます。

産業別就業人口推移

(単位：人)

区 分		平成2年	平成7年	平成12年
岡 山 市	第一次産業	15,307	13,854	11,146
	構成比(%)	5.1	4.4	3.6
	第二次産業	83,531	85,779	79,054
	構成比(%)	28.0	26.9	25.2
	第三次産業	199,493	219,064	223,120
	構成比(%)	66.9	68.7	71.2
合 計		298,331	318,697	313,320
建 部 町	第一次産業	670	689	605
	構成比(%)	16.5	17.6	16.9
	第二次産業	1,342	1,197	1,096
	構成比(%)	33.0	30.5	30.6
	第三次産業	2,057	2,033	1,876
	構成比(%)	50.5	51.9	52.5
合 計		4,069	3,919	3,577
瀬 戸 町	第一次産業	802	793	689
	構成比(%)	11.4	10.5	9.3
	第二次産業	2,401	2,481	2,357
	構成比(%)	34.1	32.8	31.7
	第三次産業	3,835	4,291	4,394
	構成比(%)	54.5	56.7	59.0
合 計		7,038	7,565	7,440
新 市	第一次産業	16,779	15,336	12,440
	構成比(%)	5.4	4.6	3.8
	第二次産業	87,274	89,457	82,507
	構成比(%)	28.2	27.1	25.5
	第三次産業	205,385	225,388	229,390
	構成比(%)	66.4	68.3	70.7
合 計		309,438	330,181	324,337
岡山県就業者人口		952,585	987,172	948,658
県に占める割合(%)		32.5	33.4	34.2

(注) 1 各年国勢調査による。

2 岡山市の人口は、旧御津町及び旧瀬崎町を含む。

3 分類不能人口は含まない。

市町別生産額等

(単位：人，百万円)

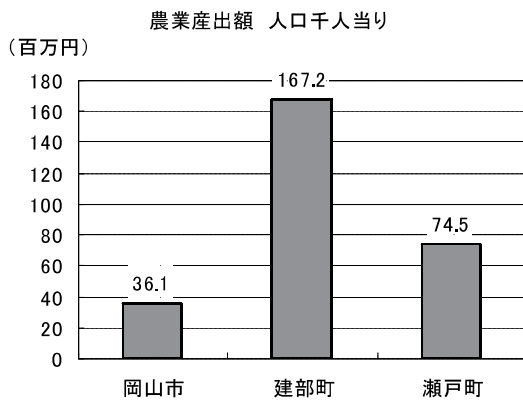
区分	人口	農業産出額	製造品出荷額等	商品販売額
岡山市	674,605	24,330	768,856	3,009,361
建部町	6,521	1,090	3,629	4,589
瀬戸町	14,900	1,110	117,835	9,796
合計	696,026	26,530	890,320	3,023,746

(注) 1 人口は平成17年国勢調査結果速報値，農業産出額は岡山農林水産統計年報（平成15年～16年版）の平成15年の数値，製造品出荷額等は平成16年工業統計調査（従業者数4人以上の事業所），商品販売額は平成16年商業統計調査による。

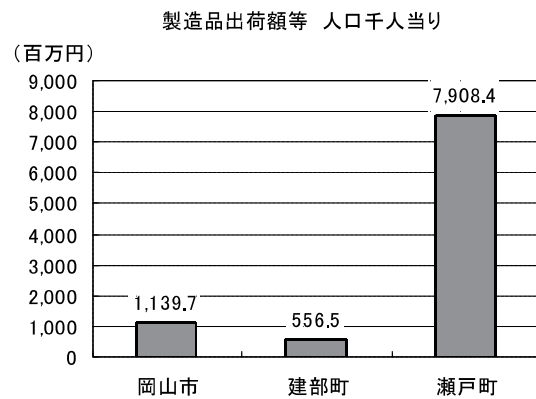
2 岡山市の数値は，旧御津町及び旧灘崎町を含む。

地域産業の特性

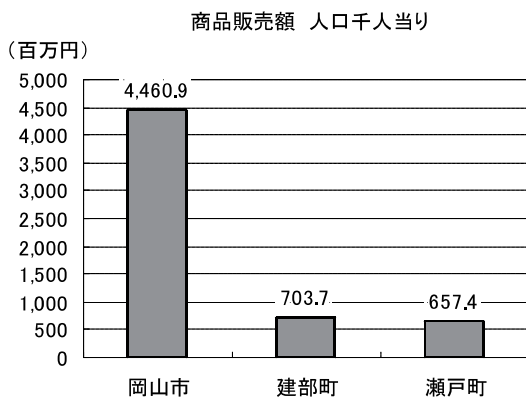
○市町別農業の状況



○市町別工業の状況（製造業）



○市町別商業の状況（卸売業，小売業）



(注) 1 人口は平成17年国勢調査結果速報値，農業産出額は岡山農林水産統計年報（平成15年～16年版）の平成15年の数値，製造品出荷額等は平成16年工業統計調査（従業者数4人以上の事業所），商品販売額は平成16年商業統計調査による。

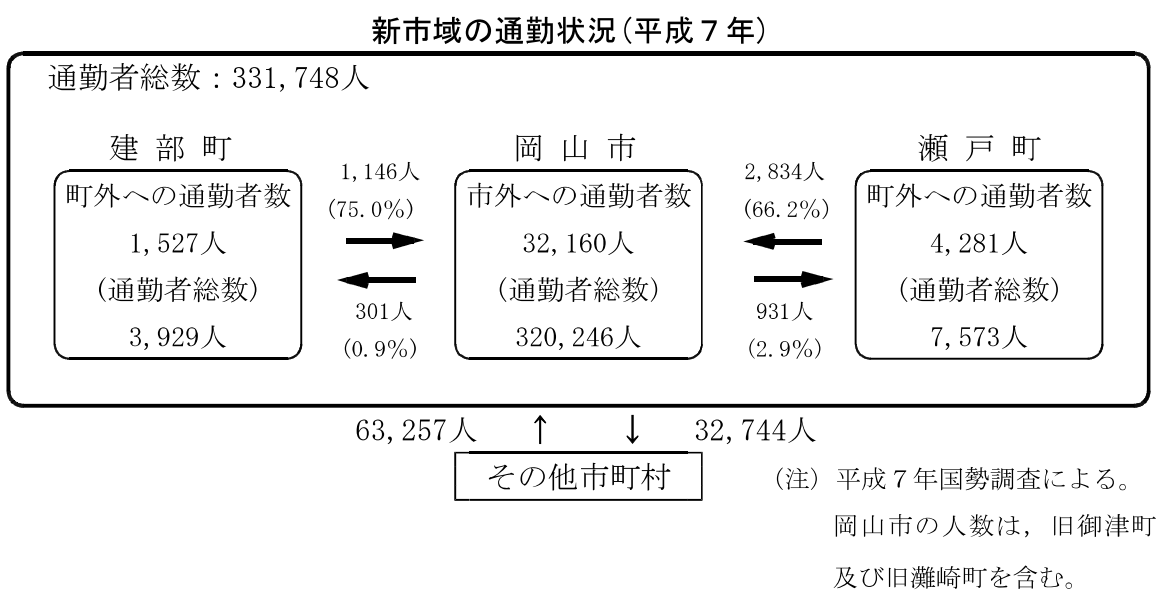
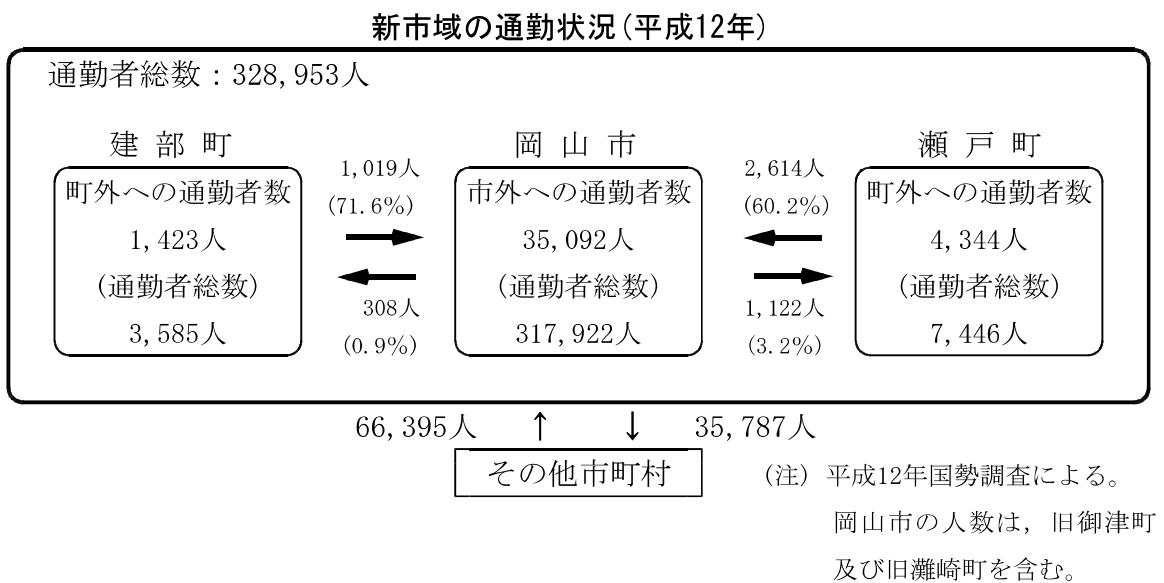
2 岡山市については，旧御津町及び旧灘崎町を含む。

(3) つながりの強い1市2町

① 通勤の状況

新市域内の通勤の状況を見ると、建部町では、町外への通勤者1,423人の内1,019人(71.6%)が、瀬戸町では、町外への通勤者4,344人の内2,614人(60.2%)が岡山市へ通っており、両町とも岡山市と密接な関係を示しています。

また、他地域から新市域内への通勤者数は、平成7年の63,257人から平成12年には66,395人となっており、経済活動の中心都市としての役割が一層増大していると考えられます。



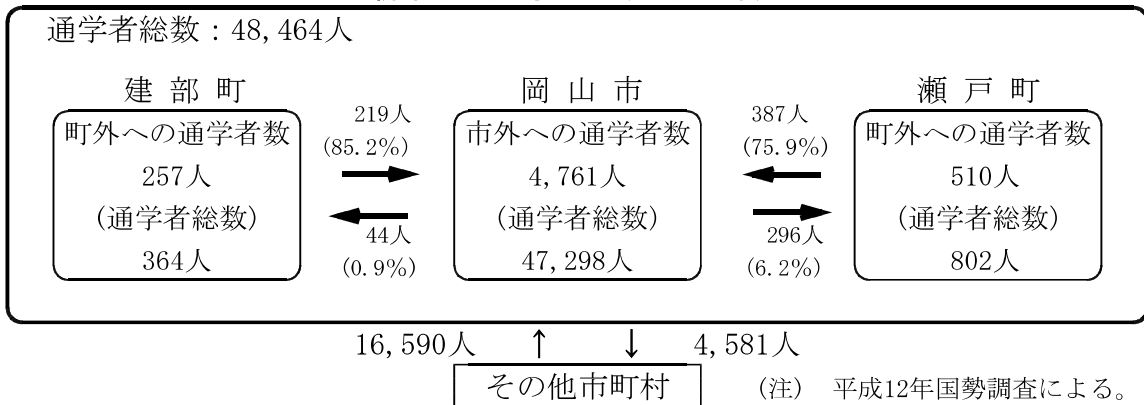
② 通学の状況

新市域内の通学の状況を見ると、岡山市に高校・大学等が集積していることから、建部町では、町外への通学者257人のうち219人(85.2%)が岡山市に通学しています。

また、瀬戸町でも同様に、町外への通学者510人のうち387人(75.9%)が岡山市へ通っており、岡山市から瀬戸町への通学者も296人となっています。

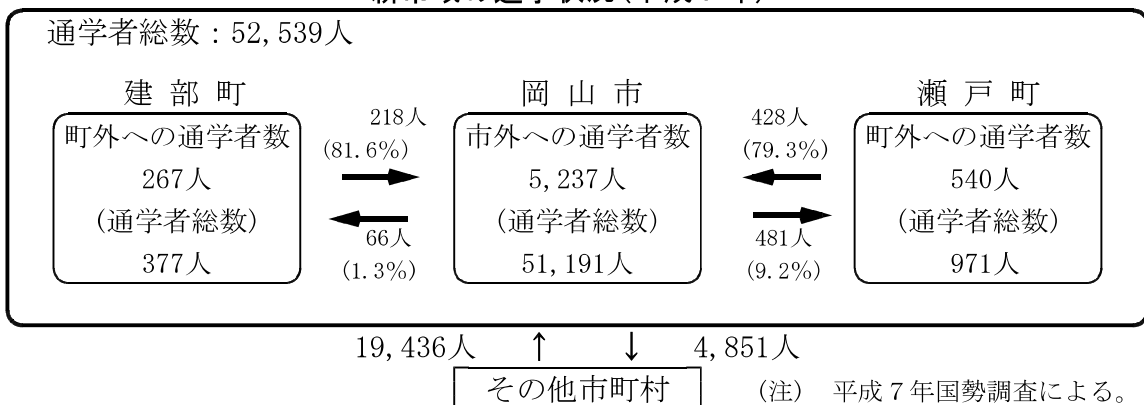
他地域との通学状況の推移を見ると、新市域内の通学者総数は減少傾向にありますが、他地域からの通学者は、新市域外への通学者数の約3.6倍にあたる16,590人となっています。

新市域の通学状況(平成12年)



(注) 平成12年国勢調査による。
岡山市の人数は、旧御津町及び旧灘崎町を含む。

新市域の通学状況(平成7年)



(注) 平成7年国勢調査による。
岡山市の人数は、旧御津町及び旧灘崎町を含む。